

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1270902818		
法人名	(株)サンガジャパン		
事業所名	ふなばし翔裕館		
所在地	千葉県船橋市松が丘5-32-1		
自己評価作成日	2020年 11月 25日	評価結果市町村受理日	2021年 2月 8日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/12/index.php
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ACOBA		
所在地	千葉県我孫子市本町3-4-17		
訪問調査日	2020年12月23日	(訪問評価)	

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当事業所では認知症ケアに力を入れています。数々の研修を通し、認知症の方の気持ちや世界を理解したうえで、適切なケアを実施してご利用者に安心して生活してもらえよう取り組んでいます。又、ノーリフト・持ち上げない介助を徹底し、職員・ご利用者様共に体に負担のない介護を目指しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

地域ごとに分かれていた事業グループを統合し、全国30余の事業所が「サンガJAPAN」として統一的な理念・方針のもとで運営されるように改組された。昨年来目標としていた「ICTの活用による介護の質の向上」は一部の家族を対象に実現し、まさにコロナ環境の中で家族とのリアルタイムの情報交換が実現している。広くて日当たりのよい中庭での草取りや野菜栽培を日常的に行い、外出支援を補完している。また、スライドボードによるノーリフト介護を取り入れ、利用者、職員共に負担を軽減する介護を実現している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	全職員に研修を行い、事業所理念の理解、浸透を図っている。理念に沿ったケアを提案、実践していけるように取り組んでいる。	今年、法人「サンガ」は、全国30以上の事業所を統合し、国際的視野で介護品質の向上を目指す取り組みにチャレンジしている。多くの研修計画が策定され、理念の浸透による介護レベルの向上に取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナの影響でボランティアイベントはほとんど行えず、近所のお休み処の利用も控えているが、定期的に連絡は取っており、状況が落ち着いたら再開したい。	地域密着サービスを、基本とするが、コロナの影響で十分な対応はとれていない。そんな中でも近所の住民がクリスマスツリーの設営や音楽セラピーなどに参加してくれたり、ボランティアの方がヘアカットを行い、美容の楽しみも継続されている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症の人の理解や支援については研修、実践を通して学んでいるが、地域貢献には至っていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議で状況報告や課題に対する話し合いを行い、そこでの意見を基にして改善に取り組んでいる。	運営推進会議は7月と9月に、地域包括支援センターや民生委員の参加を得て開催している。コロナ禍での運営については、オンライン面会などについて活発な議論がなされている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	GH連絡会や民生委員、市町村担当者と出来る限りの情報交換やサービスの質の向上のため、意見を頂いている。	コロナ禍の環境にあり、ボランティアの支援は得られていないが、市の指導監査課などの連携が取れている。介護保険課からは介護用手袋の支給もある。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束・虐待に関する会議を2ヶ月に1度開き、不適切なケアを行っていないかの検証、改善を行っている。現状、玄関の開放までには至っていないが、身体拘束をゼロに近づける努力をしていく。	適正化委員会を開催し、運営推進会議で報告をしている。対象者はいない。移乗等に際しては、スライドボードによるノーリフトケアを取り入れ、利用者、職員共に負担を軽減する介護手法を取り入れている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束・虐待に関する会議を2ヶ月に1度開き、不適切なケアを行っていないかの検証、改善を行っている。また、定期的に虐待に関する研修を全職員に行っている。		

8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に関する研修を全職員に定期的に行い、日常生活自立支援事業や成年後見制度についても学び、必要性の理解に努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際には利用者・ご家族に十分な説明を行い、理解・納得された上で契約を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日常的に利用者の気持ちの理解に努めるとともに、面会時や電話などでご家族の意見を聞く機会を設けている。頂いた意見を今後の運営に生かせるように努力している。	運営推進会議でも、オンラインによる面会などの提案があり、通信環境のできている家族とは実現している。	今後できるだけ多くの家族とのオンラインでの情報交換ができる環境づくりに努めていただきたい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日常的に職員には意見、疑問、不満等と言ってもらい、改善出来るところを改善している。	職員会議や日常の実践の中で意見を聞き実践に繋げている。具体的には、職員からの、利用者の自主性を重んずる、役割、活動範囲についての提案が取り入れられている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	全職員がやりがいを持って、働きやすい環境になるよう、意見を求め、条件整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社内研修は月1回実施。キャリアパス研修・メディアパス研修(GG式ネット研修)を実施している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	WEBでの研修や勉強会に参加し、他施設との意見交換を行い、サービスの向上に活かしている。		

II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援

15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	初期の段階で利用者とのコミュニケーションを多く取り、要望や不安等の解決に努め、信頼関係を築く努力をしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族に対しても要望や不安等を聞き、信頼関係を築く努力をしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居時の状況に合わせて適切な支援が出来るよう、利用者・ご家族との話し合いの場を設けている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員と利用者が家事等を一緒に行うことで、共に生活し、支えあう関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	電話や文書等で定期的に利用者の状況を報告し、ご家族と協力して支援にあたるよう努力している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者やご家族の希望を聞き、今までの人間関係や習慣を出来るだけ継続できるように努めている。	コロナ禍ではあるが、アクリル板の設置やフェイスシールド等の感染防止を徹底し、希望に応じて6組の家族が面会している。オンラインでの面会にも3家族が取り組んでいる。近況報告は電話や担当職員の一筆箋や写真で伝え、家族や馴染みの方との関係が継続できるよう努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	家事や制作物等を協力して行い、利用者同士が交流しやすい環境を作っている。		

22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も連絡や相談等ができる体制を作り、関係の継続に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	コミュニケーションを通じて利用者の気持ちや想いの理解に努め、本人の希望に沿った支援が出来るよう努力している。	センター方式を活用し利用者の気持ち、思いを理解し、その人らしい、生きがいのある生活は何かの把握に努めている。日々のコミュニケーションは「寄り添い5ヶ条」を基本に笑顔の接遇で利用者の表情は明るい。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	コミュニケーションを多く取り、本人の生活歴や習慣、好きな事等の情報を収集し、支援に反映させている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日常の様子観察から利用者の現状を把握し、状況に合わせた支援が出来るように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日常のケアや記録から利用者の情報を集め、課題を見つけた上で介護計画を作成している。定期的に介護計画に対する評価を実施し、課題の改善に努めている。	利用者毎の担当制をとっている。日ごろの生活を見守り、記録し、アセスメントして介護計画を作成している。3ヶ月毎モニタリングで振り返り、一人ひとり、新たな課題、目標を見極めている。状態に変化のある時はその都度カンファレンスし、現状に即した計画を立て、家族に同意を得ている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録や連絡ノートによって利用者の情報を共有し、支援に活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者やご家族のニーズや状況に合わせて、通院の付き添いや入浴方法の検討、運動の実施など必要に応じたサービスが提供出来るよう努めている。		

29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナの影響で地域サービスの利用も極力控えているが、ボランティアカットなどは継続的に利用している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・ご家族の了承を得て、医療機関・主治医を決定している。月2回の定期往診の他、臨時往診、夜間対応もある。	ホームで契約した3つのクリニックの主治医の訪問診療を受診している。訪問看護師の週1回、健康管理や医療面での相談・助言を受け、24時間オンコール体制がある。歯科診療と口腔ケア指導、マッサージ師の訪問もあるなど医療体制は充実している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に1回看護師の訪問を受け、健康管理や医療面での相談・助言を受けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には本人への支援方法などの情報を医療機関に提供。コロナの影響で見舞いは出来ないため、ご家族との情報交換を主としている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期対応はご家族、医療機関と十分に話し合った上で決定し、事業所として出来る事を職員一丸で取り組んでいる。	入居時にホームのできる支援について説明し、同意を得ている。家族、主治医、関係者を交えた話し合いを重ねて、本人・家族の思いを大切に、ホームのできる最善のケアに取り組んでおり、今年度も看取りの方があつた。いる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時におけるマニュアルを作成している。職員には定期的に緊急時対策の研修を行い、適切な行動が出来るように指導している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害発生時のマニュアルを作成している。職員には定期的に災害対策の研修を行い、適切な行動が出来るように指導している。	併設のデイサービスと合同で消防署立会いの消防総合訓練を行っている。災害発生時のマニュアルを作成し、反復して行う訓練で、利用者は非常時に対応できる方法を身につけている。新型コロナウイルス感染症について看護師から講習を受け利用者と共に感染予防に努めている。	

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者の尊厳については定期的に研修を行い、職員同士で声掛けや対応の確認をしている。	利用者のプライドを尊重し、職員相互で「スピーチロックによる拘束」に注意している。否定的な言葉を使用しない、「寄り添う支援」に取り組み、又ノーリフトケアで、利用者、職員の負担を軽減する移乗介助に取り組んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中でも本人の希望を聞いたうえで支援にあたるように努め、拒否されたことなどを無理に行わないようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたか、希望にそって支援している	出来る限り利用者の希望に沿う努力はしているが、人員や業務の都合で職員都合になってしまっていることもある。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	月1回ボランティアカットの利用。化粧品や髭剃り等本人が望むものも購入・提供できるよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理、盛り付け等を利用者と一緒出来るようにメニューの工夫などをしている。	食事は、ユニット毎、旬の食材を使い、利用者や調理や盛り付けと一緒にしている。夏祭りには、焼きそば、焼き鳥等、特別食を用意し、スイカ割に興じ、笑顔が見られた。毎食後口腔ケアを行い、自分の歯でいつまでも食べられるよう支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量・水分量は日々記録に残し、摂取が少ない時などはその都度声掛けをしている。場合によっては看護師・医療機関に相談している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後は必ず口腔ケアを実施。利用者の能力に合わせて介助にあたっている。		

43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を利用し、定期的な声掛け、誘導を実施。排泄の失敗を極力無くす努力をしている。	排泄チェック表を活用して、その人に寄り添ったさりげない、誘導声掛けをしている。ADLに応じ介護用品を選んだり、ラジオ体操や散歩など適度の運動で下肢筋力維持に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘予防のため、毎朝ヤクルトを提供。体操や散歩などの適度な運動も毎日実施。医療機関の指示の基、必要に応じて下剤を使用することもある。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	出来るだけ利用者の希望する日時に入浴を行いたい、現状では職員都合になってしまっていることもある。	入浴は個浴で、週2～3回、希望する時間にゆっくり入れるよう配慮している。一般浴の困難な方には併設のデイサービスの特浴の支援をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日常的に休息の声掛けを行い、いつでも自室で休めるように支援している。夜間は室温・服装等に注意し、安眠出来るよう努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者情報ファイルに服薬情報もファイルし、いつでも確認できるようにしている。追加薬処方の際はその都度職員同士で確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人一人の生活状況や能力を把握し、その人に合わせた支援を提供出来るように努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナの影響で外出や買い物は出来ないが、散歩や外気浴等の時間を作り、気分転換出来るように支援している。	コロナ禍で、地域のサロンやシルバー食堂への外出は自粛が続いている。毎週移動パン屋さんの買い物を楽しみにしている。自家菜園でジャガイモや、サツマイモを収穫し、中庭で手作りのお茶会を開いて楽しんでいる。	

50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	週に1回移動パン屋を利用。ご自分で好きなものを購入してもらっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙や電話の希望があれば、その都度対応している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	フロア内の照明や音量、明るさ等は職員が調整し、利用者が不快にならないように努めている。季節に応じて飾りつけや掲示物等も変更している。	リビングは、季節感を出し、レク活動はできる範囲で支援している。誕生会はグループごと催し、笑顔の写真が飾られている。席は利用者の関係性を配慮し、居場所を工夫している。コロナ感染予防は、毎朝チェックシートを使い、ホーム内の清掃、手すりの消毒、換気の点検等を、利用者も一緒に取り組んでいる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合った利用者様と交流できるようにお席を配置している。リビングにソファを設置。いつでもくつろげるように配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室内には本人の希望する物を持ち込めるようにしており、今までの生活習慣を出来るだけ継続出来るように配慮している。	居室には使い慣れた家具や思い出の品を持ち込み、居心地よい部屋になっている。「できることは自分で」が目標で、カーテンを開け、モップ掛け、拭き掃除で清潔が保たれている。職員は「介入しない」ルールを決め、見守り、自立支援に努めている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	フロア内、浴室、トイレ、廊下に手すりを設置。安全かつ自立した生活が出来るように支援している。		